



平成27年 5月16日

各 位

会社名 株式会社ファーマーズ
 代表者名 代表取締役社長 金 武 祐
 コード番号 2 9 2 9 (東 証 マ ザ ー ズ)
 問合せ先 取締役経営企画部部長 益田 和二行
 兼総務部部長
 T E L 0 7 5 - 3 9 4 - 8 6 0 0

業績予想の修正に関するお知らせ及び次期(平成28年7月期)の業績予想について

当社は最近の業績の動向等を踏まえ、平成26年9月12日に発表いたしました平成27年7月期(平成26年8月1日～平成27年7月31日)通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。また次期(平成28年7月期:平成27年8月1日～平成28年7月31日)の業績予想についても、併せてお知らせいたします。

記

1. 平成27年7月期通期業績予想の修正(平成26年8月1日～平成27年7月31日)

(金額単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	2,500	200	190	170	5円88銭
今回修正予想(B)	2,150	△380	△320	△250	△8円63銭
増減額(B-A)	△350	△580	△510	△420	
増減率(%)	△16.0	-	-	-	
(ご参考)前年同期実績 (平成26年7月実績)	1,614	△28	11	8	0円34銭

(注)当社は、平成27年2月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり当期純利益」を算定しております。

2. 修正の理由

当社は平成25年12月12日に発表の中期経営計画に基づき、「Bio Business Triangle (バイオ ビジネス トライアングル)」を基本方針に「機能性素材事業(Bio seeds)」「創薬事業(Bio medical)」「通信販売事業(Bio value)」を重点事業としてまいりました。

上記の3事業に注力してきた結果、今期の売上高は前期との比較では大幅な増収となる見込みです。しかしながら、期初の業績目標には未到達の見込みであり、業績予想値を修正するものです。差異要因及び修正の要因は以下の通りです。

<売上高、営業利益の差異要因(単位:百万円)>

	売上高			営業利益		
	予算	見込み	差異	予算	見込み	差異
通信販売事業	720	760	+40	0	△300	△300
機能性素材事業	1,280	1,100	△180	130	0	△130
創薬事業	150	5	△145	60	△80	△140
その他事業	350	285	△65	10	0	△10
合計	2,500	2,150	△350	200	△380	△580

(通信販売事業)

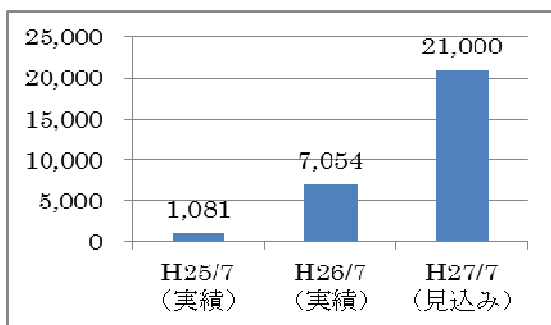
当社は2012年8月より通信販売事業を開始しております。

今期はこれまでの実績を基に、テレビ、ラジオ、新聞等において積極的な広告投資を行ってまいりました。

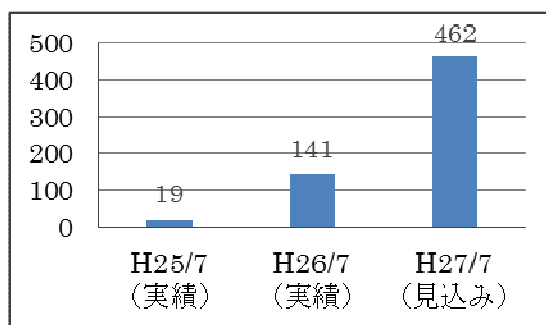
主力製品である「タマゴサミン」の広告では、前期以上の高い効率で顧客を獲得できております。特にテレビCMでは、本年4月より新番組のテストを行った結果、従来の約3倍の効率で顧客を獲得しております。また、化粧品「sognando (ソニヤンド)」シリーズの広告も好調に推移しており、昨秋発売した高付加価値製品の定期顧客が順調に増加しております。

その結果、今期末の定期顧客数は前期の約3倍の21,000件、定期顧客のLTV (ライフ・タイム・バリュー) は約460百万円となる見込みです。

【定期顧客数推移 (単位: 件)】



【定期顧客LTV推移 (単位: 百万円)】



(注) 定期顧客LTV (顧客生涯価値) :

定期継続期間中に見込まれる売上から、経費を差し引いた累積利益額

当社は通信販売事業に確かな手応えを掴んでおります。テレビCMの好調を受けて議論を重ねた結果、将来の売上100億円を視野に入れ、第4四半期において、新たに200百万円超の追加投資を行なうことを決定いたしました。

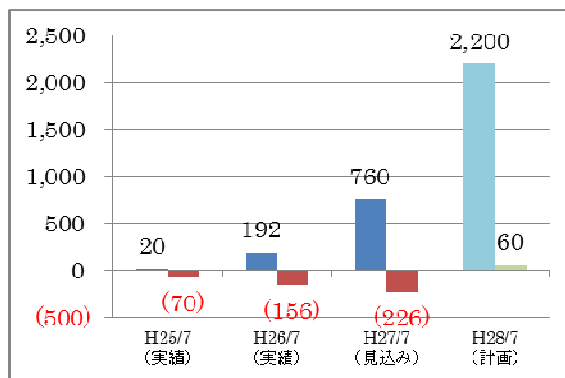
その結果、通販事業全体として売上高は予算を約40百万円上回り、760百万円の見込みであるものの、第4四半期の追加投資が今期利益の減少要因となり、修正が必要となったものです。

今期の先行投資は、来期の大幅な成長に繋がります。来期も引き続き積極的な広告投資を行い、広告宣伝費は約13億円、売上は今期の3倍となる22億円を見込んでおります。

【業績推移】

(単位: 百万円)

■ 売上高 (実績、見込) ■ 売上高 (計画)
■ 事業利益 (実績、見込) ■ 事業利益 (計画)



(注) 事業利益は通販事業の売上高から、売上原価及び販売管理費の内、同事業にかかる個別費を控除し、算出しております。販売管理費の内、共通費は除いておりセグメント会計基準によるセグメント利益とは異なります。

(機能性素材事業)

機能性素材事業では、平成26年9月12日付で発表いたしました「業績予想との差異に関するお知らせ」に記載の通り、前期から期ずれとなっておりました中国向けの案件を今期の上期段階で見込んでおりました。しかし、海外メーカーの動向等により当初の計画から遅れ、今春から売上計上を開始したため、通期の売上が約80百万円、計画を下回る見込みとなりました。

また国内市場においては、主力素材である「GABA(ギャバ)」は好調に推移しておりますが、機能性素材アイテムのなかで前期は売上が上位にあった「iHA(アイハ)」が今期は低調であり、計画を下回る見込みとなりました。

これらの結果、機能性素材事業は期初目標を売上高1,280百万円としておりましたが、今期は1,100百万円の見込みです。

次期の活動として、海外展開では中国ビジネスを拡大してまいります。既に今春から世界的な大手企業と複数の取引が開始されており、今般の取引開始を機に中国ビジネスを拡大します。

また、北米市場において米国食品医薬品局(FDA: Food and Drug Administration)による認可(Full GRAS: Generally Recognized As Safe)を行い、売上を伸ばしてまいります。

国内市場においては、本年4月から開始された「機能性表示制度」を活用した積極的な展開を行ってまいります。主力素材である「GABA」の他、他の機能性素材の展開も図り市場開拓を行います。この他、新規素材である美白素材「セレプロン」、免疫力向上素材「バナファイン」等の営業展開を進め、各メーカー等と共同で開発を行い、新たな市場を構築してまいります。

機能性素材事業の次期の売上高は1,200百万円を見込んでおります。

(創薬事業)

1. 「関節リウマチプロジェクト」 2. 「転移性悪性腫瘍プロジェクト」 3. 「骨形成ペプチドプロジェクト(リプロタイト)」をパイプラインとして引き続き研究、営業を行っております。今期は、そのパイプラインの契約一時金として、150百万円の収益を見込んでおりました。

これまで、各大学医学部との共同研究開発、公的機関による支援事業の採択をもとに、複数の同技術の特許出願を行っております。

今期はこれらの成果をもって、国内外の複数の大手製薬企業と交渉を進めた結果、CDA(秘密保持契約)締結、MTA(サンプル供給契約)締結、契約収入の一部を計上するなど、非常に大きな成果に繋がっております。

以上により、事業は着実に進展しております。一部の契約収入は今期に計上しておりますが、150百万円の計上には至らず、業績予想の修正を行うものです。この契約一時金については、次期に計上を見込んでおります。

各製薬企業との取り組みについて、会社名、共同開発の進捗、契約状況の詳細等につきましては、秘密保持の関係上、大変申し訳ありませんが差し控えさせていただきます。

(総括)

今期は、「Bio Business Triangle」を基本方針に「機能性素材事業(Bio seeds)」「創薬事業(Bio medical)」「通信販売事業(Bio value)」の各事業に取り組んできた結果、売上高は過去最高の20億円を超える見込みであり、各事業とも進展しております。

一方で今期の業績目標が未達成になったことを真摯に受け止めまして、株主、投資家みなさまへ深くお詫び申し上げます。

当社では、経営成績について責任を明確化するため、本日「役員の異動及び役員報酬の減額」を決定しております。

今期の業績を踏まえまして次期の業績目標を策定いたしましたので、以下にお知らせいたします。

3. 平成28年7月期（平成27年8月1日～平成28年7月31日）通期の業績予想について

(1) 業績数値（単位：百万円）

	平成26年7月期 (実績)	平成27年7月期 (見込み)	平成28年7月期 (予想)
売上高	1,614	2,150	3,700
営業利益	△28	△380	10
経常利益	11	△320	50
当期純利益	8	△250	40

(2) 事業別売上高（単位：百万円）

	平成26年7月期 (実績)	平成27年7月期 (見込み)	平成28年7月期 (予想)
通信販売事業	192	760	2,200
機能性素材事業	1,081	1,100	1,200
創薬事業	52	22	150
その他事業	289	268	150
合計	1,614	2,150	3,700

* 次期の各事業の詳細な内容については、期末決算説明会後に別途お知らせの予定です。

< 参考：中期経営計画の進捗状況(単位:百万円) >

	H26/7期		H27/7期		H28/7期		H29/7期
	計画	実績	計画	見込み	計画	予想	計画
売上高	1,750	1,614	2,500	2,150	3,500	3,700	5,000
営業利益	45	△28	250	△380	560	10	1,500

* 平成29年7月期以降につきましては、次期の進捗を踏まえまして、新たに中期経営計画を策定する予定です。

○当資料取扱上の注意点

当資料には、株式会社ファーマフーズの業績、戦略、事業計画等に関する将来的予測を示す記述及び資料が記載されております。

これらの将来的予測に関する記述及び資料は、本資料発表日現在において入手可能な情報と、目標や予測に基づいて作成したものであり、確約や保証を与えるものではありません。将来的予測と異なる結果になることがある点を認識したうえで、ご利用ください。

以上